

会 議 録

1 会議名

令和6年度第3回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議

・板倉区内の施設見学について（公開）

○報告事項

・日帰り・宿泊温泉施設の適正配置の取組について（公開）

○その他（公開）

○第1回地域振興部会・第1回健康福祉部会・第1回地域防災部会（公開）

3 開催日時

令和6年7月23日（火）午後6時00分から午後7時00分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：小林政弘（会長）、植木節子（副会長）、秋山秀夫、新井武司、小川義雄、釜田富男、小林昌子、清水淳一、庄山健、中澤健一、藤原順昭、南直樹、山本孝一

・事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、内藤次長、名倉次長、高橋建設グループ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、清水教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、金井主任

8 発言の内容（要旨）

【内藤次長】

- ・会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・挨拶

【小林会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。
会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を小川委員に依頼。

3 自主的な審議「板倉区内の施設見学について」、事務局から説明をお願いする。

【千葉地域振興班長】

資料1は、前回、委員の皆さんに行ったアンケート結果を集計したもの。備考欄には、公の施設の適正配置計画での取組方向、管理形態、指定避難所であるか、などの情報を加えた。

前回の会議で、事務局が板倉区の課題を整理した上で、見学が必要な施設を提示するべきだとの意見をいただいた。一方で、現地で説明を聞くことによって見えてくる課題もあり、なるべく多くの施設を見たいが個人では行けない施設もある、との声もあった。

どちらの意見もそのとおりだが、今回は、各委員の部会の所属が決まったこともあり、まず部会で意見交換をした上で、見学の必要性、見学するとしたら全員なのか部会だけでいいのかも含め、考えをまとめてほしい。資料1はそのための参考資料としていただきたい。

【小林会長】

意見はあるか。

（意見なし。この後の部会で協議する。）

【小林会長】

4 報告事項「日帰り・宿泊温泉施設の適正配置の取組について」、事務局から説

明をお願いする。

【佐藤産業グループ長】

昨年度の地域協議会で報告済みだが、新たに委員になられた方もいらっしゃるの
で、再度説明させていただく。資料はその時と同じものである。

・資料2について説明

【小林会長】

質問はあるか。

【庄山委員】

公募がなかった場合どうするのか。

【名倉次長】

今回のプロポーザルは、民営化できるかどうかの検討を行うこととなる。公募が
なかった場合、引き続き指定管理となる。

【庄山委員】

指定管理をやっていきながら、廃止も検討していくということか。

【名倉次長】

指定管理を引き受けていただけるならば、今のところ廃止という検討はない。ま
ずは民営化できるかを考えていく。

【小林会長】

経営的に厳しい面もあるが、今はネクストリゾート上越が指定管理者となってい
る。次のステップとして検討するという捉え方でよいか。その結果を踏まえて、次
のことを考えるということか。

【名倉次長】

まずはプロポーザルで民営化できるかという調査を行う。指定管理者も現れなく
なったら廃止も検討していかなければならないが、やすらぎ荘は今のところそうい
う状況ではない。

【植木副会長】

令和13年度以降はどうなるのか。

【名倉次長】

指定管理を引き受けてもらえなくなった場合、廃止ということもあるが、今のところそういう状況ではないので、まだ13年度以降は分からない。

【中澤委員】

今後は経年劣化により、ますますお金がかかる施設になるだろう。13年まで引きずっていいのかという議論は、一度どこかでしておくべきだと思う。

【名倉次長】

老朽化のことも含めて、長期的に見た場合どうするかを令和8年度から12年度の間を検討していかなければならないと考えている。

【小林会長】

次のステップに移行となる重要なことなので、地元も含め、地域協議会にも丁寧に説明してほしい。

【小林会長】

5 その他、何かあるか。

【千葉地域振興班長】

・事務連絡

【小林委員】

地域協議会の会議録は公開されないのか。

【千葉地域振興班長】

会議の開催から概ね1か月後に公開される。

【藤原委員】

旧山部小学校のクライミング施設で、インストラクターの方が寝袋で泊まっていたと聞いた。グループホームであった旧寺野小学校を、宿泊場所として提供できないだろうか。

【清水グループ長】

使用できるかなど検討した上で、利用者に伝えたい。

【山本委員】

総合事務所隣の来庁者駐車場の白線がほとんど消えている。危ないので、改善できるならしてもらいたい。

【内藤次長】

8月中旬に実施できる見込み。

【小林会長】

他に何かあるか

(なし)

【植木副会長】

- ・閉会の挨拶

【内藤次長】

一旦、第3回板倉区地域協議会を終了する。

引き続き、部会を開催する。

【千葉地域振興班長】

この後は各部会の座長から進行を進めていただく。

部会の担当範囲だが、地域振興部会には観光、農業、産業、健康福祉部会には、高齢者、障害者のほか子どもたちの福祉も含まれる。

次回の地域協議会で、各部会から出された主な意見などについて発表していただく。皆さんの意見を元に、会長、副会長、事務局で今後の進め方について協議したい。

なお、今後、部会の開催は、各部会の判断で開催することができるが、その場合は、今回と同じく公開会議となり会議録も公表されるので、準備のため2週間前までに事務局へお知らせいただきたい。

○ 第1回地域振興部会（座長：清水委員）

【中澤委員】

- ・「地域振興」とは「地域経営」だと考える。
- ・地域には、人、物、金、情報、有形資産、無形資産といった様々な財産がある。
- ・板倉区には小学校6校区の地域があり、伝統や文化がそれぞれ違うことから、同じことを地域で行っても反応は異なる。

- ・私は板倉区にとって「人的資源」が一番の問題になってくると考えている。
- ・将来的な人口動態を見ると、働き盛りの世代の人口が2割も減るという予測があり、地域振興を図るにはこの視点は重要である。
- ・大切なのは「板倉を担う次世代」をどのように育てていくかである。
- ・広い板倉のフィールドの中で、板倉のブランドを探すのではなく、あまり広げない方がよいと私は思う。
- ・ただ、地域振興を持続可能な状態にしていくには、「潤う満足」、「納得感」がなければ、駄目だと思う。
- ・10年後、20年後も継続していけることが重要である。
- ・「まちづくり」とは、今住んでいる地域の魅力や活力を高めることが極めて重要である。
- ・地域にとって、稼げる取り組み、元気が出る取り組みになるようにしなければならない。
- ・考えられる「地域の課題」がいくつかあるが、それぞれ深掘りをしていく必要がある。
- ・「板倉のブランド化とブランディング」について。板倉の財産と言え板倉区のPRマスコットキャラクター「いたくらけいと」がモデルとなっている「米」のほか、「雪」についても挙げられると思う。
- ・光ヶ原高原では雪シーズンには、インバウンド向けに雪上車も上がっている。
- ・今ある財産、地産地消をブラッシュアップしていく必要もある。
- ・板倉の「歴史上の人物」、「旧跡（城跡等）」を取り上げるのもよいかもしれない。
- ・新しい観光資源の開拓、そして既存の地域内資源をどう活用していくか。
- ・心理学モデルで用いられる「ジョハリの窓」と呼ばれるものがある。これを「板倉区の住民」と「外部の人」といった具合に見立てて、色々なネタを当てはめることができると思われる。

【植木副会長】

過去の部会の協議録のような資料があるか確認してほしい。

【中澤委員】

板倉保養センター（やすらぎ荘）は、今後プロポーザルを実施するので、様子を見てはどうか。

【植木副会長】

（地域振興の議論に入るに当たり）区内全域について広く検討するのではなく、テーマを狭めた方がよいと思う。

【清水座長】

ゑしんの里観光公社の理事をしていた時に、ゑしんの里記念館駐車場で金銭をやりとりするような「販売」をしてはならないと市から指導された。ところが、今はゑしんの里記念館駐車場で「販売」は行われている。

【中澤委員】

市から示される指定管理者への仕様書に様々な「縛り」がある。

【植木副会長】

新山屋（板倉区針）敷地裏の土地問題は何とか解決しないと駄目だと思う。

【山本委員】

地域振興を検討する際は「人的資源」がネックになると思う。高齢者が増加する一方で、若年者は減る傾向にある。高齢者をターゲットにしたらよいと思う。

ゑしんの里記念館の利用の仕方が「もったいない」と感じている。もっと何かに利用できないものか。昔、ゑしんの里記念館内に「ドトールコーヒーを誘致したらどうか」と施設関係者に提言したことがある。

【清水座長】

ゑしんの里記念館は敷地も広く、活用しない手はないと思う。

【山本委員】

芝生広場があるので、グラウンドゴルフ（大会）が出来るのではないか。

【清水座長】

ある程度のターゲットを絞ろう。時間となったので、8月9日に話し合いの続きを行う。

○第1回健康福祉部会（座長：釜田委員）

【南委員】

高齢化が進む中で、継続して福祉の受け皿がどのようになっていくのか。介護・福祉の受け皿というよりは、高齢や障害の方が集える場所が必要である。今、サロンという形で活動を行っているが、固定化しており運営が難しくなっている。今後、それぞれ地域でつながり助け合うにはどんな形で行われていくかが課題である。

【小林委員】

地域の茶の間事業に関わっている。できるだけ介護にならないようにその前段階からアクションを起こしてほしいが、参加者はいつも決まっていて、声掛けしてもなかなか出てきてくれない。介護にならないようにどうしたらいいのか、皆で補っていききたい。

【藤原委員】

コミュニティは崩壊寸前状態。若い人といっても60代。老人クラブの集まりに来る人も、限られている。みんなで集まるイベントは難しくなっている。寺野全体でも中学生、小学生は一人ずつ、新たに増える見通しもない。高齢者に重点を当てていくことになってしまうのではないか。

通院時の足がない。子どもが近くに住んでいけばよいが、仕事を休んでもらうのも大変。近所の若い人に頼むがその若い人でも60代後半。画期的な解決方法はない厳しい状況である。

【釜田座長】

子どもがいないということが課題。子どもを産める年齢層の人もいない。板倉区全体でも中学校は1年生が一クラスとなった。

【藤原委員】

豊原は団地があるからまだよい。

【清水グループ長】

ところが今は、豊原も小学校1学年一クラスしかない。令和10年には複式学級になる。

【小林委員】

子どもは数えるほどしかいない

【藤原委員】

寺野は限界集落ではないか。グループホーム寺野もなくなってしまった。

【釜田座長】

板倉区の課題は、老々介護。

【南委員】

デイサービスや介護のサービスは充実しているし、特別養護老人ホームもある。受け皿や公的支援は充実している。

【藤原委員】

でも、そこから漏れる人が必ずいる。地域支え合いとして、小林さんが言われた介護になる前の活動もやっているが、ヘルパーは人材不足で、地域のつながりで買い物に行くとか、支え合うのが段々厳しくなっている。地域住民が訪問できるノウハウを得て支え合う仕組みを構築しようとしても、無報酬でやっているのがほとんどで、支える側に手を挙げていただけない状況。支え合いの体制を充実させる必要がある。

白タク行為にお金を入れるのは難しい。タクシー業界がうるさい。

【南委員】

有償福祉運送は中山間地までは距離の関係で難しい。中山間地でも町場でも健康であれば生活できる。皆がそこを意識しているのか、健診にちゃんと行っているのか、健診を受けていれば介護を受けるのが抑えられるのかなど分からない状態。色々な問題があると思う。

【小林委員】

かかりつけ医がいれば良いと思っている人もいる。

【藤原委員】

我々が若かったときは、うちで寝ている人が多かったが、今は施設が充実し受け入れてもらっている。

板倉区の課題としては、子どものことも大事であるが、ある程度高齢者問題に絞って考えていくべきではないか。町内は高齢者ばかりであるが、困ることなく、い

かに安定してそこに住めるかが大事。

【釜田座長】

テーマを一つにすべきか。

【清水グループ長】

一つでよいと思う。あまり大きい課題に取り組んでも、例えば板倉区を取組で国の老化現象を食い止められるわけではないので、まず、私たちがやれることから取り組むことを考えたほうが、成果が出やすいと思う。

【釜田座長】

その方が深く掘り下げられる。

【清水グループ長】

先ほどどなたかがおっしゃっていた「高齢者が、困ることなく収束していく」ということを、3の「本来あるべき姿または将来目指す姿」にして、考えていくとよいのでは。

【南委員】

住み慣れた地域で、困ることなく生活し続けること。

【藤原委員】

迷惑だから我慢するとかしなくていいようにしたい。買い物ひとつでも困る。うちの地域には店がない。

【清水グループ長】

その辺の話は、次回以降でよいかもしれない。

【藤原委員】

高齢者がどこまで安心して暮らせるようにするのか。公的な支援や環境づくりなどについてどうしていくか。

○第1回地域防災部会（座長：秋山委員）

【秋山座長】

「板倉の課題」といっても大きな話であり、皆さんこの場ですぐに意見を出せな

いと思う。

【小林会長】

前協議会の自主的審議で議論されたこととして、自主防災組織が機能していないところがあり、大規模災害における町内会と防災士と民生委員による支援体制の構築が必要という話があった。

【秋山座長】

自助・共助・公助を住民に理解してもらう必要がある。一人暮らしの高齢者に自助の意識を持っていただくことは難しい。また、自主防災組織力の違いにも課題がある。

【庄山委員】

災害の危険度、例えば土砂災害の可能性が高いなど、地域によって条件、重要度が違う。洗い出ししなくてはならない。

【小川委員】

私の町内会では毎年自主防災組織による訓練をしている。

【庄山委員】

自主防災組織を作るだけで終わっているところもある。

【新井委員】

集落の規模の大小、災害の大小、災害の種類等の違いがある。筒方地区は旧筒方小学校が避難所ではあるが、土砂災害になれば避難所に行けなくなる。緊急時にはヘリでの救助を、という声もある。

【庄山委員】

防災士が一番知識を持っていると思うが、町内会の指示がないと動けないのか。

【秋山座長】

防災士は防災士会に年会費を払っている一方で、活動には報酬がないという問題がある。私の町内会では、町内の防災士の年会費を町内会が負担している。

今回は、各自が考える防災に関する課題を発表し合い、区内の自主防災組織や防災士の情報も踏まえ、協議を行うこととする。日時は8月27日の地域協議会の後とする。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。